

— 目 次 —

<特集>

地域開発(県計画)の指標—球磨篇

土地改良から
観光開発まで..... 8

- ♣潤う球磨南部.....13
- ♣球磨の養蚕.....15
- ♣拡大造林と林道の強化.....26
- ♣めざましい湛水直播.....28
- ♣集約酪農へのみち.....30
- ♣実現した栗の共販体制.....31
- ♣水と歴史とやまなみと.....33
- ♣茶園所得の向上.....36

<ルポ>

- 1. 大型專業養蚕へ(人吉市).....15
- 2. 水害解消への布石(〃).....28
- 3. 繊維企業の進出(多良木町).....29
- 4. 乳牛の集団育成(球磨酪農).....32

□ここに人あり
山の看護婦さん.....25

★ずいそう★

阪田 貞雄・内田 恵子・牛島 盛光

★グラビアページ

若者のうたごえ、新産業風土記ほか

★表紙.....人吉のキジ馬

かつて平家の落人が手なくさみにつくったというキジ馬は、今や球磨の代表的な民芸品となった。赤と青もて染められたその素朴な造型を見ていると、そこはかとなく遠い日の哀愁を感じるのである。

★センターカラー.....球磨川と水の手橋

水郷人吉は四季通じて美しい。すきとおるような球磨川の静かな流れに古城の森影を映して、初夏の人吉は新鮮な息吹につつまれる。



上・先輩の指導で民謡や郷土史の研修に励む彼女たち。



上・「またきて下さいねー」「ガイドさんも元気だね」別れはちよっぴりさびしい。

下・舟は、私たちの職場、ひまな時は舟の手入れも。



下・シーズンがきて川下りの舟が続く。



球磨川下りのガイドさん

「おどま盆ぎり盆ぎり……ガイドの明るい歌声をのせ、舟はシブキをあげて球磨川を矢のようにくだっていく。」

相良公の参勤交代にはじまるという球磨川下りの行程は、人吉城趾対岸の発船場から、球磨村の白石までの約二四キロ。この間、奇岩怪石を縫って三時間程度で下る川下りは、スリル満点。まさに天然のウォーターシュートだ。そして、ガイドの美声が、さらに川下りの興趣を盛りあげる。

ここで働くガイドさんたちは、経験五年のベテランから、今年、中学を卒業したばかりのニューフェイスまで八名。平均年齢一六才という「若鮎」たちだ。

川下りは、人吉観光のホープ。それだけに大瀬、神ノ瀬、修理ノ瀬など四八瀬の急流を下りながら、人吉を少しでも理解して貰おうと、古くから人吉、球磨地方に伝わる伝説や民謡などを折りまぜて案内するガイドさんの声にも熱がこもる。

さらに、お客さんへの適切な指示、船酔いの介抱など、ガイドさんも楽ではない。

つらい時もあるが、東北、東京、北九州など遠来のお客さんから、「球磨川下りは素晴らしい。今度は家族連れできますよ。どうもご苦労さん」とねぎらわれる時、明日への仕事に、また一段とファイトを燃やす彼女たちだ。

観光人吉の一端を担って、今日も彼女たちの案内で、舟は明るい歓声をのせて急流をくだっていく。